

様式第 2 (第12条関係)

加入国際学術団体に関する調査票

1 国際学術団体活動状況 (内規第 11 条 活動報告)

団 体 名	和	国際地質科学連合
	英	International Union of Geological Sciences (略 称 IUGS )
	団体 HP (URL)	http://www.iugs.org (日本学術会議が加盟していることの記載 (有) ・ 無 )
国際学術団体における最近のトピックについて (学術の進歩、当該団体の推進体制の変化、国際機関・政府・社会との関わり方等)		<p>IUGS は、地球の観測・調査を通じて、地球の仕組み、活動および歴史を理解し、地球の活動に起因する地球資源の集積、地球環境の変遷、そして自然が引き起こす各種災害に関する研究を行い、国際学術会議 (ISC) の活動に貢献する重要な役割を担っている。</p> <p>世界中で災害が頻発する現在の状況において、さらなる国際協力、情報交換、研究強化が必要とされ、防災に対する国際ネットワークの構築が重要視されている。そのため、IUGS では活動の幅を広げるため、ISC や国連が推進する Future Earth のような大規模な目標に向けた取り組みの強化、UNESCO との共同で国際地球科学ジオパーク計画 (IGGP) の推進などを行っている。特にジオパークは、防災教育や自然を観光資源として開発することに繋がることから国際的にも社会的な関心が高く、各国の国民や地域社会にとって重要な事業となっている。</p> <p>また、「チバニアン」の制定で広く知られるようになった GSSP の制定など、国際標準の制定も重要な関心事である。最近のトピックとして、Anthropocene (人新世) が地質時代として成立するかどうか、International Commission on Stratigraphy (ICS) 部会での検討が進められている。また、Forensic Geology (犯罪地質学、法地質学) などの社会と密接する分野での貢献も顕著になっている。</p>
政策提言や世界の潮流になりそうな研究テーマ・研究方法・研究助成方式等について		<p>現在、世界における緊急の課題は、大規模自然災害に対する施策を科学的な根拠に基づいて立案することである。地震・津波・火山爆発・地すべりによる人的・経済的損害は急激に増加している。日本の自然災害に関する研究の成果は、これらの災害対策に大きく貢献しており、さらなる国際発信が必要である。</p> <p>災害は予知が難しいため、我が国の政策も減災重視へとシフトしたが、減災の基本は自分たちの土地の特性を把握して起こるべき災害の可能性を知ることであり、地質学的な情報が必要不可欠である。そのため、IUGS では 2018 年から Geohazard Task Group (TGG) が設置され、災害の国際的なネットワーク形成、国際会議の開催、災害関連の出版、災害地図の作成、政府行政官庁への提言を行うことになり、日本がリーダーシップを担っている。それ以外にも資源関連も重要視され、Geochemical Baseline (元素分析値の世界的分布)、Resources for Future Generation (次世代資源探査) など行われ、その探査と開発に関して大きな成果をあげつつある。</p> <p>これらの災害・資源地図作成では全地球における均質なデータセットの提供が必須であり、One Geology (シームレスな全球地質情報) が有用で、日本の技術提供が期待されている。</p>

## 様式第 2 (第12条関係)

<p>日本人役員によるイニシアティブ事項や日本からの参加によって進展や成果があったものについて</p>	<p>現在、日本からは北里 洋氏が IUGS の財務担当理事に選出され、会長・事務局長と共に執行委員会メンバーとなり、IUGS 運営の中核を担っている。IUGS Commission の国際地層委員会には 16 の時代別小委員会があり、そのうち 10 の小委員会に日本人委員が投票権を持つ委員として参加しており、各地質時代の地層境界などの議論をリードしている。ICS が作成している地質年表は、全世界で使用されている。</p> <p>また、大久保泰邦氏は Geohazard Task Group の Chair となり IUGS の災害に関する活動を担っている。社会的な関心の高いジオパークに関しては、渡辺真人氏がユネスコ世界ジオパークカウンシル委員として日本から唯一の役員として参加している。</p> <p>さらに、IUGS Initiative の 国際犯罪地質学協会 (IFG) は、犯罪捜査に重要な地学情報の科学捜査への利用を目指した国際ネットワークであり、杉田律子氏 (科学警察研究所) が役員として参加しており、活躍がめざましい。また、Affiliated organization (連携学術機関) である国際古生物学協会 (IPA) では大路樹生氏が副会長に就任し、古生物関連の国際活動の中心を担っている。</p>
<p>加入していることによる日本学術会議、学会、日本国民への変化やメリットについて</p>	<p>「チバニアン」の報道でもわかるように、IUGS の活動は GSSP の制定にも大きく関与し、ユネスコ世界ジオパークの選別にも関連するなど、国民の関心の高い案件を少なからず含んでいる。これらに関する情報は、IUGS に加入していることにより迅速に得ることが可能となっている。</p> <p>また、日本は災害が頻発するため、地震、津波、火山噴火、地滑りなどの研究が世界で最も進んでいる。そのため、ハザードマップの作成には地質学的な情報は必要不可欠であり、そのための標準基準はすべて IUGS により決められている。この基準により火山噴火、活断層、軟弱地盤の定義が決まり、土木・建築事業にも影響を及ぼす。地滑りに関しても地質情報なしには、その原因を特定することはできない。このように、IUGS は私たちの生活基盤である地質に関する定義を所掌し、実態を把握している。活動的な日本列島に住む我々にとって、IUGS は必要不可欠な国際組織であり、そこから受けるメリットはきわめて大きい。</p> <p>特に、災害の大規模化により防災・減災に関しても IUGS の発信する情報と国際的なネットワークは重要である。日本のもつ研究成果の提供と国際協力は諸外国からは高い評価を受けており、学術会議や学会にとっても大きなメリットとなっている。</p> <p>IUGS 加盟国は分担金を負担するが、その金額によって総会などにおける投票の票数が異なる。日本は、米国・英国・中国・ロシアなどとともに 8 票を行使出来るカテゴリー 8 を維持しており、IUGS の政策決定に大きな影響力を与える立場を維持している。その成果として、理事や財務担当理事など運営にかかわる人材を送り出しており、その活躍が評価されている。</p> <p>IUGS 国内委員会である IUGS 分科会は、世界の地質科学研究の動きをいち早く捉えて日本に情報を伝達し、また IUGS E-Bulletin (電子情報誌) に記事を投稿するなど、世界に向けた発信も続けている。この活動を継続するため、学術会議主催の国内および国際ワークショップを頻繁に開いて IUGS に貢献する努力を続けている。</p>

## 様式第 2 (第12条関係)

<p>その他 (若手研究者・女性研究者育成法、科学者の倫理に関する当該国際学術団体の基本方針や憲章、資金提供ソースの発掘における画期的な方策等の特記事項など)</p>	<p>分科会では、今後の活動を継続できる若手育成を行うため、国際的な活動をしている若手研究者の IUGS 各委員会や小委員会への積極的な登用や推薦を行っている。また、国際学会のセッションやワークショップへの積極的な参加を奨励し、IUGS 組織の運営に関する経験を積んでもらっている。また、女性研究者の登用に関しても、常に新たな候補者となるべき人材を選定している。IUGS 本体の活動の規範になる憲章の確立に向けても、的確で積極的な発言を続けている。</p>
---	--

## 2 今後の予定について (内規第 11 条 活動報告)

<p>総会、理事会の日本開催の予定について (招致等の予定も含め)</p>	<p>2018 年 11 月 11~14 日に IUGS の執行委員会 (Bureau Meeting) および地学災害に関する国際シンポジウムを仙台で開催した。シンポジウムに伴い、東日本大震災の痕跡を見学する巡検を行い、現地で討論した。また、IUGS の総会の基礎となる IGC (万国地質学会、4 年ごとの地質科学分野での大規模な学会) は第 36 回が 2020 年にインドのデリーで開催される。その次の第 37 回 IGC は 2024 年に韓国・釜山で開催が予定されており、日本の協力が期待されている。</p>
<p>日本人の役員立候補等の予定について</p>	<p>IUGS では、IUGS 分科会委員の北里 洋氏が財務担当理事 (トレジャラー) に就任した (2016~2020 年)。財務担当理事は、理事会において会長、事務局長とともに執行部を担う三役であり、重要な職務を担っている。2020 年以降に対しても理事会に役員を送るべく人選を進めている。</p>
<p>現在、検討中の日本からの提言や推進するプロジェクト等の動きについて</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) Geohazard Task Group (自然災害要因の調査と成果の普及) が、2016 年の 8 月に行われた第 5 回 IUGS 総会で認可された。会長は大久保泰邦氏が就任し、日本主導のプロジェクトとして行われる (HP-URL: <a href="http://iugstgg.lab.irides.tohoku.ac.jp">http://iugstgg.lab.irides.tohoku.ac.jp</a>)。その活動として、国際誌 Episodes の特集号編集、2017 年 JpGU-AGU 合同大会での国際シンポジウムの開催、2018 年に RFG2018 (IUGS の内部組織) 主催の会議でシンポジウムの開催、災害関連論文の出版が進行中 (地震と津波災害が社会に与える影響、Geological Society Special Publication) である。</li> <li>2) 2019 年には、Asia Oceania Geoscience Society (AOGS) (シンガポール) で、「Global and Societal Impacts of Geohazards」と題したセッションを開催予定、また 2020 年にもアブレス諸島 (ポルトガル) にて自然災害に関するシンポジウムを開催する予定である。さらに、2020 年の IGC (ニューデリー、インド) でも自然災害に関するシンポジウムを開催する予定となっている。</li> <li>3) 日本の地質研究者グループが、更新世中期の基底の「国際標準模式断面及び地点」として千葉市原市の地層と「チバニアン」の名称を ICS の第四紀部会に提案して承認された。この成果は報道等でも大きく取り上げられ、国民の関心と期待が高まっている。さらに上位の ICS 委員会に送られ、順調に推移している。</li> <li>4) 日本の年代学研究者を中心として、島弧地殻の隆起/削剥量の長期的時空間変化の全容解明を目指す「日本列島熱年代学マッピング」の作成を、熱年代学国際会議などで提案している。本提案は、2024 年開催予定の第 19 回熱年代学国際会議の日本招致に向けた中核ブ</li> </ol>

様式第2 (第12条関係)

	プロジェクトとして、地質年代学小委員会を始め関係者の総力を結集し進めている。
--	--

3 国際学術団体会議開催状況 (内規第11条 活動報告)

<p>総会・理事会・各種委員会等の状況 (過去5年間及び今後予定されているもの)</p>	<p>総会開催状況</p>	<p>2016年 (開催地: 南アフリカ・ケープタウン) 2020年 (開催地: インド・ニューデリ)</p>
	<p>理事会・役員会等開催状況</p>	<p>IUGS 理事会: 2014年 (開催地: インド・ゴア)、2015年 (開催地: カナダ・バンクーバー)、2016年 (開催地: 中国・昆明、南アフリカ・ケープタウン)、2017年 (開催地: フランス・パリ)、2018年 (開催地: ドイツ・ポツダム)、2019年 (開催地: 中国・北京)、2020年 (開催予定地: スペイン・マドリッド) IPA 理事会: 2015年 (開催地: アルゼンチン・メンドーザ)、2018年 (開催地: フランス・パリ)</p>
	<p>各種委員会開催状況</p>	<p>役員選考委員会: 2016年 (開催地: パリ・フランス) 執行委員会: (2016年11月北京; 2017年1月パリ; 2017年6月ロサンゼルス; 2017年10月シアトル; 2018年1月ポツダム; 2018年6月バンクーバー; 2018年11月仙台; 2019年2月北京)、2020年 (開催予定地: スペイン・マドリッド)</p>
<p>研究集会・会議等開催状況</p>	<p>2014年 (開催地: パリ・フランス、第42回 IGCP 本部理事会・総会)、(開始地: メンドーザ、アルゼンチン、第4回国際古生物学会議及び IPA 総会)、(開催地: シャモニー・フランス、第14回熱年代学国際会議) 2015年 (開催地: 名古屋、国際第四紀学連合19回大会)、(開催地: プラハ・チェコ、ゴールドシュミット会議2015)、(オーストリア・グラーツ、第2回層序学国際会議)、(開催地: 仙台、第3回国連防災世界会議・国連防災世界会議人材育成ワークショップ会議) 2016年 (開催地: ケープタウン・南アフリカ、第35回万国地質学会議および国際地質科学連合総会)、(開催地: マレシアス・ブラジル、第15回熱年代学国際会議)、(開催地: 横浜・日本、ゴールドシュミット会議2016 横浜) 2017年 (開催地: パリ・フランス、国際地質科学連合理事会および事務局会議)、(開催地: パリ・フランス、ゴールドシュミット会議2017)、(開催地: ウィーン、国際白亜系会議) 2018年 (開催地: カナダ・バンクーバー、Resources for Future Generation 会議 IUGS-TGG セッション)、(開催地: 台中、台湾、台湾-韓国-日本合同会議)、(開催地: 韓国、釜山、第54回 CCOP 会議 IUGS-TGG セッション)、(開催地: ドイツ・ポツダム、IUGS-EC および事務局会議)、(開催地: クヴェードリンブルク・ドイツ、第16回熱年代学国際会議)、(開催地: 日本・仙台、Geohazard Risk Reduction 国際シンポジウム)、(開催地: サンルイポトシ、国際ジュラ系会議)</p> <p>予定されているもの 2018年 (開催地: ドイツ、熱年代学国際会議) 2019年 (開催地: 北京、中国 IUGS-EC および事務局会議)、(開催地: シンガポール、Asia Oceania Geoscience Society、Global and Societal Impacts of Geohazards セッション)、(開催地: ミラノ、第3回国際層序学会議)、 2020年 (開催地: アメリカ、第17回熱年代学国際会議)</p>	

様式第2 (第12条関係)

	2022年 (開催地: イタリア、第18回熱年代学国際会議)
上記会議等への日本人の参加・出席状況及び予定	<p>2014年、第42回IGCP本部理事会・総会 (パリ・フランス)、1人 (うち代表派遣: 斎藤文紀)</p> <p>2014年、第4回国際古生物学会議及びIPA総会、国際地質科学連合 (IUGS) 関連団体の総会、(メンドーサ、アルゼンチン)、14人 (参加者 IPA 小委員会5名、うち代表派遣: 小川勇二郎)</p> <p>2014年、9/8~9/12、第14回熱年代学国際会議 (シャモニー・フランス)、5人 (参加者: 田上高広)</p> <p>2015年、国際第四紀学連合19回大会 (名古屋)、477人 (参加者: 斎藤文紀、北里洋)</p> <p>2015年、ゴールドシュミット会議2015 (プラハ・チェコ)、208人 (うち代表派遣: 益田晴恵)</p> <p>2015年、第2回層序学国際会議グラーツ (オーストリア)、6人 (うち代表派遣: 北里洋)</p> <p>2015年、第68回地質科学連合 (IUGS) 理事会バンクーバー (カナダ)、1人 (うち代表派遣: 小川勇二郎)</p> <p>2015年、国連防災世界会議人材育成ワークショップ会議 (仙台)、40人 (うち代表派遣: 北里洋、小川勇二郎、大久保泰邦ほか)</p> <p>2016年、第35回万国地質学会議 (ケープタウン・南アフリカ) およびIUGS総会、理事会、78人 (北里洋、佃永吉、斎藤文紀、大久保泰邦、小川勇二郎 IUGS分科会メンバーほか、うち代表派遣: 北里洋、斎藤文紀)</p> <p>2016年、第15回熱年代学国際会議 (マレシアス・ブラジル)、2人 (参加者: 田上高広)</p> <p>2016年、ゴールドシュミット会議2016横浜 (横浜・日本)、996人 (参加者: 益田晴恵)</p> <p>2017年、国際地質科学連合理事会および事務局会議 (パリ・フランス)、2人 (参加者: 北里洋、大久保泰邦、うち代表派遣: 北里洋)</p> <p>2017年 (平成29年)、ゴールドシュミット会議2017 (パリ・フランス)、170人 (うち代表派遣: 益田晴恵)</p> <p>2017年、国際白亜系会議 (オーストリア・ウィーン)、4人 (参加者: 長谷川卓)</p> <p>2018年、Resources for Future Generation 会議 IUGS-TGG セッション (カナダ・バンクーバー)、3人</p> <p>2018年、第54回 CCOP 会議 IUGS-TGG セッション (韓国、釜山)、2人 (北里洋、大久保泰邦、うち代表派遣: 北里洋)</p> <p>2018年、国際地質科学連合理事会 (IUGS-EC) および事務局会議 (ドイツ・ポツダム)、2人 (北里洋、大久保泰邦、うち代表派遣: 北里洋)</p> <p>2018年、第16回熱年代学国際会議 (クヴェードリンブルク・ドイツ)、6人 (参加者: 田上高広)</p> <p>2018年、Geohazard Risk Reduction 国際シンポジウム (日本・仙台)、7人 (参加者: 西・木村・大久保・佃・奥村・益田、北里)</p> <p>2018年、国際ジュラ系会議 (メキシコ・サンルイポトシ)、1人 (参加者: 松岡篤)</p>

様式第 2 (第12条関係)

		<p>以降の予定 (予定)</p> <p>2018 年、熱年代学国際会議 (ドイツ)、6 人 (田上高広)、</p> <p>2019 年、国際地質科学連合理事会 (IUGS-EC) および事務局会議 (北京、中国)、2 人 (北里洋、大久保泰邦、うち代表派遣: 北里洋)</p> <p>2019 年 Asia Oceania Geoscience Society (シンガポール) 5 人</p> <p>2020 年、第 17 回熱年代学国際会議 (アメリカ)、5 人 (参加予定: 田上高広)</p> <p>2020 年、35<sup>th</sup> IGS(インド・デリー)、 IUGS 総会・理事会・執行理事会 (参加予定: 北里洋ほか 8 名)</p>			
<p>国際学術団体における日本人の役員等への就任状況 (過去 5 年)</p>		<p>役職名</p>	<p>役職就任期間</p>	<p>氏名</p>	<p>会員、連携会員の別</p>
		<p>IUGS・理事</p>	<p>2012～2016</p>	<p>小川勇二郎</p>	<p>特任連携</p>
		<p>IUGS・財務理事</p>	<p>2016～2020</p>	<p>北里洋</p>	<p>(21-22 期) 会員, (23-24 期) 連携</p>
		<p>IPA・副会長</p>	<p>2012～2018</p>	<p>北里洋</p>	<p>(21-22 期) 会員, (23-24 期) 連携</p>
		<p>IPA・副会長</p>	<p>2018～2020</p>	<p>大路樹生</p>	<p>(21-22, 23-24 期) 連携</p>
		<p>Voting member, Subcommission on Quaternary Stratigraphy, International Commission on Stratigraphy, IUGS 国際層序委員会 第四紀層序小委員会 委員</p>	<p>2017～2020</p>	<p>斎藤文紀</p>	<p>(23・24 期) 会員・連携</p>
		<p>IUGS・Geohazard WG・会長</p>	<p>2018～</p>	<p>大久保泰邦</p>	<p>(21-22, 23-24 期) 連携</p>
		<p>UNESCO Geopark Council member</p>	<p>2018～2020</p>	<p>渡辺真人</p>	<p>(22-23 期) 連携, 24 期特任連携</p>
		<p>Global Geopark Network Advisory Committee Chair</p>	<p>2016～2020</p>	<p>中田節也</p>	<p>(21-22, 23-24 期) 連携</p>
		<p>Global Geopark Network Executive board member</p>	<p>2016～2020</p>	<p>渡辺真人</p>	<p>(22-23 期) 連携, 24 期特任連携</p>
		<p>IGCP Council Member</p>	<p>2017～2020</p>	<p>久田健一郎</p>	
		<p>IGCP Project 640 共同 Leader</p>	<p>2015～2020</p>	<p>山田泰広</p>	
		<p>IGCP Project 668 共同 Leader</p>	<p>2018～2022</p>	<p>上松佐知子</p>	
		<p>IGCP Project 608 Leader</p>	<p>2013～2018</p>	<p>安藤寿男</p>	
<p>IGCP Project 589 共同 Leader</p>	<p>2012～2017</p>	<p>上野勝美</p>			
<p>国際地質科学史委員会・副会長</p>	<p>2016～2020</p>	<p>矢島道子</p>			
<p>出版物</p>	<p>1 定期的 (年 4 回) 主な出版物名: Episodes</p> <p>2 不定期 (年 12 回) 主な出版物名: IUGS-E-Bulletin、王立ロンドン地質学会特別刊行物</p>				
<p>活動状況が分かる年次報告等があれば添付又は URL を記載 (<a href="http://www.iugs.org">http://www.iugs.org</a>)</p>					

様式第2 (第12条関係)

4 国際学術団体に関する基礎的事項 (内規第3条、4条、5条)

国内委員会 (内規4条第3号)	委員会名	地球惑星科学委員会 IUGS 分科会
	委員長名	西 弘嗣 (24期)
	当期の活動状況	<p>(開催日時 主な審議事項等)</p> <p>1) 第24期1回: 2017年12月26日 13:00-14:30 役員の選出, 小委員会の承認, IUGS活動報告 (Executive Committeeでの活動, Geohazard Task Group 活動報告)</p> <p>2) 第24期2回: 2018年5月16日 14:00-15:30 72<sup>nd</sup> IUGS Executive Committee Meeting 報告, Geohazard Task Group 活動報告, Chibanian について</p> <p>3) 2018年11月12日 Geohazard Task Group 主催の国際シンポジウム開催</p> <p>4) 第24期3回: 2018年11月13日 11:00-13:00, 20:00-21:00 IUGS Bureau Meeting 日本開催</p> <p>5) 第24期4回: 2019年6月18日 15:00-18:00 予算説明, IUGS活動報告 (Executive Committeeでの活動, Geohazard Task Group 活動報告, 委員候補者の推薦, ICS-SQS 活動報告), 年次報告, 小委員会報告</p> <p>6) 第24期5回: 2019年11月5日 (メール審議) シンポジウムの開催について</p> <p>7) 第24期6回: 2020年2月17日 (メール審議) シンポジウムの開催について</p> <p>8) 第24期7回: 2020年3月25日 14:00~18:00 IUGS活動報告, IGC 総会報告, 小委員会報告</p>
内規第3 (国際学術団体の要件関係)	<p>国際学術交流を目的とする非政府的かつ非営利的団体である</p> <p>① 該当する          2. 該当しない</p> <p>※根拠となる定款・規程等の添付又は URL を記載 (<a href="http://www.iugs.org">http://www.iugs.org</a> )</p>	
	<p>各国の公的学術機関及び学術研究団体等が国際学術団体に国を代表する資格を有して加入するものが、主たる構成員となっている (主たる構成員が、いわゆる「国家会員」であるか否か)</p> <p>① 該当する          2. 該当しない</p> <p>※根拠となる資料の添付又は URL を記載 ( <a href="http://www.iugs.org/">http://www.iugs.org/</a> の adhering member のページに参加国のリストと連絡先がでている。いずれも、各国に唯一の国内委員会が示されている )</p>	
	<p>下記の事項 (ア~エ) のいずれか一つに該当するか (該当するものに○印)</p> <p>① ア 個々の学術の専門分野における統一かつ世界的な組織を有するもの</p> <p>イ 研究の領域が複数の専門分野にわたるものであって、統一かつ世界的な組織を有するもの</p> <p>ウ 研究の領域が複数の専門分野にわたるものであって、ア又はイの国際学術団体を連合した世界的組織を有するもの</p> <p>エ 構成員のうち、各国代表会員がアジア地域等我が国が関係する地域等に限られるもの</p>	

**様式第 2** (第12条関係)

	<p>であって、当該国際学術団体の研究の領域が複数の専門分野にわたるもの</p>
	<p>10 ヲ国を超える各国代表会員が加入している          ①. 該当する            2. 該当しない</p>
<p>加入国数及び          主要な各国代          表会員を          10 記載</p>	<p>(121 ヲ国)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• U.S. National Committee for IUGS / USA</li> <li>• The Geological Society of London / UK</li> <li>• Deutsches National Komitee IUGS / Germany</li> <li>• VP International, geological Society of France / France</li> <li>• Comitato Italiano per la IUGS / Italy</li> <li>• Canadian National Committee for IUGS / Canada</li> <li>• Russian National Committee of Geologists / Russia</li> <li>• Geological Society of China / Peoples Republic of China</li> <li>• National Committee fro Earth Sciences / Australia</li> <li>• Norwayigian National Committee for IUGS / Norway</li> </ul>